

工業簿記

問1

購入原料価格差異	円 ()
----------	-------

問2

原料費の差異分析	原料配合差異	円 ()
	原料歩留差異	円 ()
直接労務費の差異分析	労働賃率差異	円 ()
	労働能率差異	円 ()
	労働歩留差異	円 ()
変動製造間接費の差異分析	予算差異	円 ()
	能率差異	円 ()
	歩留差異	円 ()
標準変動費差異合計		円 ()

問1、問2の () 内には「有利な差異」の場合には F と記入すること。
「不利な差異」の場合には U と記入すること。

問3

実際損益計算書

(単位：円)

売上高	()
標準変動費	()
標準貢献利益	()
標準変動費差異	()
実際貢献利益	()
固定製造間接費	()
棚卸資産金利	()
設備金利	()
販売手数料	()
固定一般管理費	()
残余利益	()

原 価 計 算

問 1

内製か購入かの問題を解くための原価計算目的は、である。

(注) 上のの中に該当する原価計算目的の番号を記入しなさい。

問 2

(1) 部品 G 3 の 1 個あたりの変動製造間接費 = 万円

(2) 月間の固定製造間接費 = 万円

問 3

部品 G 3 の総需要量が 個を超えるならば、

$\left\{ \begin{array}{l} \text{内製} \\ \text{購入} \end{array} \right\}$ が有利である。
 $\left\{ \begin{array}{l} \text{内製、購入のどちらでもよい。} \end{array} \right.$

(注) 該当する文字を で囲み、不要な文字を消しなさい。

問 4

(1) 部品 G 3 の総需要量が 5,500 個～6,500 個の範囲にあるかぎり、

$\left\{ \begin{array}{l} \text{内製} \\ \text{購入} \end{array} \right\}$ が有利である。
 $\left\{ \begin{array}{l} \text{内製、購入のどちらでもよい。} \end{array} \right.$

(注) 該当する文字を で囲み、不要な文字を消しなさい。

(2) 部品 G 3 の総需要量が 6,500 個以上であって、

内製のコストと購入のコストが等しくなる総需要量 = 個

問 5

甲案 (部品 G 3 を内製する案) のほうが、乙案 (部品 G 3 を購入し、部品 N 5 を内製する案)

よりもコストが 万円だけ $\left\{ \begin{array}{l} \text{高い} \\ \text{低い} \end{array} \right\}$ ので $\left\{ \begin{array}{l} \text{甲案} \\ \text{乙案} \end{array} \right\}$ のほうが有利である。

(注) 該当する文字を で囲み、不要な文字を消しなさい。

工業簿記

予定損益計算書（単位：千円）

	7月	8月
売上高	()	()
売上原価	()	()
売上総利益	()	()
販売費・一般管理費	()	()
営業利益	()	()
支払利息	()	()
経常利益	()	()
固定資産売却損益	()	()
税引前当期純利益	()	()
法人税等	()	()
当期純利益	()	()

（注）固定資産売却損益は、売却損の場合、金額の前に△をつけること。

予定貸借対照表（単位：千円）

	7月	8月
流動資産		
現金	()	()
売掛金	()	()
製品	()	()
原料	()	()
小計	()	()
固定資産		
土地	()	()
建物・設備	()	()
減価償却累計額	()	()
小計	()	()
合計	()	()
流動負債		
買掛金	()	()
借入金	()	()
未払法人税等	()	()
小計	()	()
固定負債	()	()
株主資本		
資本金	()	()
資本剰余金	()	()
利益剰余金	()	()
小計	()	()
合計	()	()

原 価 計 算

問 1 円

問 2 円

問 3 円

問 4 年

問 5 円